

パルシステム東京 震災復興支援基金「パル未来花基金」助成活動レポート

震災復興支援基金「パル未来花基金」の助成を受けて、復興支援活動に取り組みました。その取り組みについて、組合員の皆さんにご報告します。

グループ名	シューレ大有志石巻支援を風化させない会
支援対象者・エリア	宮城県・福島県
企画開催地	石巻・郡山・気仙沼・東京
企画名称	息の長い石巻地域復興・不登校・ひきこもり支援
実施期間	2018年7月～2019年3月

支援活動の目的・内容・感想

(どうしてこの活動をはじめたのか、どのようなことに取り組んだのか、取り組んだ感想など)

2011年連休に石巻に被災地支援で行ったおりに、小さな浜の集落で規模が小さいゆえに支援があまりかない場所に出会いました。殆どの家も漁船も養殖の筏も津波で流されておられる方々なのに支援があまり来ていませんでした。また、家は単に生活の場ではなく、思い出のものが詰まった記憶が形になったものもあり、被災者からは「思い出のあるものが全部なくなってしまって、本当に私は生きてきたのか誰かに疑われたら、自分でも信じられなくなりそう」と云うようなことも聞きました。私たちにできることは微力だけれど、これは長い期間関わることが必要で、せめてそのくらいは出来るのではないかと考え、立浜という小さな集落に継続的に支援活動をしていこうと思いました。

活動の中で、被災地で不登校・ひきこもりを経験する子ども・若者が増えていることを知り、不登校・ひきこもりの若者が生き方を創る場であるシューレ大学の経験が生きる活動が必要とされている、と感じ、経験共の活動を石巻、ついで気仙沼、さらに郡山で始めました。

活動を続ける中で感じるのは、復興は時間がかかるということです。ハコ・モノは整えることが出来ても、生活の復興、こころの復興はたやすいことではなく、また、そのためには人が関わり合うことが大切であるということも感じています。不登校・ひきこもりは十代までの支援はあっても、それ以上の年齢の人や家族を対象とした当事者に寄り添った支援は非常に少なく、求められていると感じます。

活動の様子（写真など）



帆立貝稚貝の耳釣り作業(石巻市立浜)



気仙沼での不登校を体験した若者シンポジウム